

あきたキッズプログラミングアワード

県内の小中学生を対象にしたプログラミングコンテスト「あきたキッズプログラミングアワード」(秋田魁新報社主催、秋田大、県立大、秋田高専共催)の最終審査が16日、秋田市中通のにぎわい交流館で開かれた。2部門のうち、アイデア部門は高谷愛菜さん(釈迦内小5年)、ソフトウェア部門は小野伶也さん(外旭川中3年)が優勝した。両部門を通じ、小学生で最も優れた発表を披露した井上絢斗さん(港北小4年)は来年3月に東京で開催される「全国選抜小学生プログラミング大会」に出場する。

全国出場は井上さん(港北小)

コンテストは今回で7回。ナルソフトウェアの発想力や目。「みんなのみらい」をテーマに完成度を競うソフトウェア部門1マに実現可能なアイデアを門の2部門を実施した。12競うアイデア部門と、オリジナリティ1組(196人)が応募し、

10組が最終審査に臨んだ。

参加者は大学教授ら9人の審査員の前で、自分の作品への思いや具体的な機能についてプレゼンテーションした。

高谷さんは、相次ぐクマの被害から身を守るため、腕時計型のデバイスにアプリを入れて対策する方法を提案。ドローンや定点カメラなどで把握したクマの位置情報を共有するシステムや、人工知能(AI)がクマが出そうな場所や時間帯などを予想して伝える機能について発表した。

小野さんは、プログラミング中級者向けに学習を円滑に進めるためのプログラミング言語を開発した。英語のコードを使った学習でつまずく人が多いことから、英語をカタカナにしてコードを書けるよ

う設定。初級者向けの言語と類似性を持たせることでスムーズな移行ができるとした。

井上さんはソフトウェア部門に出場。毎日の忘れ物で苦労していたことから、忘れ物を防止するアプリを制作した。持ち物リストを作成し、チェックするとスタンプがたまり、キャラクターを育成することができるとした。持ち物の確認が楽しみになり、忘れ物を減らすことができたこと紹介した。全国大会への出場を決め、「とてもうれしい。全国大会でも今日のように緊張せず、元気に発表を頑張りたい」と話した。

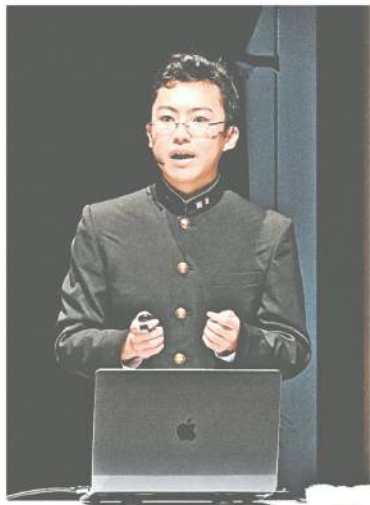
(水品千夏)

アイデア部門

高谷さん(釈迦内小)

ソフトウェア部門

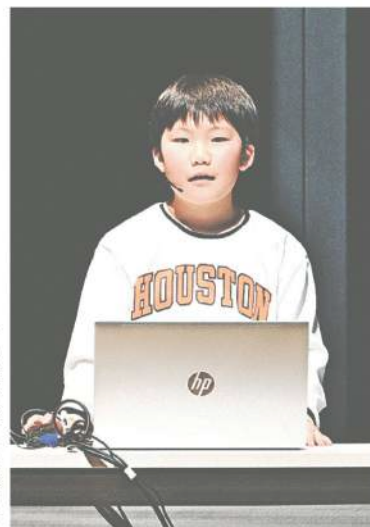
小野さん(外旭川中)



プログラム作成の学習を円滑に進めるプログラミング言語を開発した小野さん



デバイスとアプリを使ってクマの被害から身を守るアイデアを発表した高谷さん



キャラクターの育成を楽しみながら忘れ物をなくせるアプリを提案した井上さん